

教育基礎論		講 師 堤 ひろゆき	
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200201

1. 授業のねらい・概要

われわれは教育を通じて大人になり、教育という関係性のなかで日々他者とかわっている。誰もが日常的にかかわり経験的に知っているこうした広い意味での「教育」を、批判的に捉え直す試みが教育「学」だとするならば、教育学を学ぶことにはわれわれ自身のアイデンティティを問い直す作業が必然的に含まれると言える。この授業では、われわれが素朴に抱く子ども観や学校観の歴史的・思想的起源を探ることによって、自らの暗黙的な教育観を反省的に対象化・言語化することを目指す。

2. 授業の進め方

レジュメおよび資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料なども適宜織り交ぜていく。

3. 授業計画

1. 講義の概要	9. 教育思想史を学ぶ③：ヘルバルトとデューイ
2. 「教育」の条件①：ヘレン・ケラーの事例から	10. 日本の教育の歴史①：近代教育制度の始まりから大正新教育運動
3. 「教育」の条件②：野生児の事例から	11. 日本の教育の歴史②：大正から戦後の教育への連続と断絶
4. 教育における「発達」という視点	12. 近代教育批判①：近代的主体の形成と学校教育
5. 子ども観の思想史①：子ども観の社会史	13. 近代教育批判②：教育空間の可視化と学校教育
6. 子ども観の思想史②：現代の子ども観	14. 新しい教育を考えるために①：学校接続と生成としての教育
7. 教育思想史を学ぶ①：ロックの積極教育とルソーの消極教育	15. 新しい教育を考えるために②：媒介者としての教師
8. 教育思想史を学ぶ②：消極教育の受容と展開	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

配布資料および参考文献の読解に 30 分程度、論述課題にむけての準備に 1 時間程度、あわせて 1 時間 30 分以上の準備学修を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験前に解答のポイントを説明する。試験後には講評を公開する。

6. 授業における学修の到達目標

他の諸学問とは異なる教育学的な思考様式の基礎を身につけ、教育という視座から様々な事象を眺めることの重要性の理解をテーマとし、下記の目標を掲げる。

- ・教育の原理に関する基礎概念や理論を理解する。
- ・教育思想の変遷や学校教育の歴史について理解する。
- ・現代の教育問題について、理論や歴史をふまえた考察を行うことができる。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末試験（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

8. テキスト・参考文献

自作の講義資料を配布する。参考文献としては木村元ほか（2009 年）『教育学をつかむ』有斐閣。

9. 受講上の留意事項

本講義では他の教職関連科目を受講する際の基礎となる内容を扱うため、原則として1年次に履修すること。明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く望む学生の受講を希望する。